

今、なぜ在宅か？

座談会 ～在宅医療・在宅介護について考える～

医療や介護の制度や施設は、以前とは比べものにならないくらい充実しています。その結果、高齢になって体が不自由になると、医療機関の入院や介護老人福祉施設に入ることが、比較的容易にできるようになりました。また最近では、そうすることが当たり前のような風潮もあるように思えます。

でも中には、できれば在宅で過ごしたい、在宅で最期を迎えたいと本人が希望しておられたり、できればそうさせたいと考える家族もおられることがあります。

町では、そのような希望をかなえるためには、具体的に何が障害となっているのか、どうすれば、そういう希望をかなえることができるのかを、これから検討していきたいと思っています。

この座談会では、町内の診療所医師や、いま家で介護をしておられる方などにお集まりいただき、在宅医療や在宅介護の現状とこれからについて、話し合っていました。

座談会出席者（写真左から）

- 山口隆之（大山町長）
- 阪本京子（自営業）
- 久野宣年（大山口診療所所長）
- 山脇美香（名和診療所所長）
- 小谷和彦（鳥取大学医学部健康政策医学）

